

②排水処理

ターミナル施設の排水計画は、表-6.1.2(8)に示すとおり、ピーク時旅客数（8660人）及び従業員等485人を想定した約265m<sup>3</sup>/日とする。

処理システムは、「尿尿浄化槽及び合併処理浄化槽の構造方法を定める件」（昭和55年7月14日建設省告示第1292号、最終改正 平成13年3月28日国土交通省告示第353号）第7第一号の接触ばっ気法・ろ過方式に基づく処理能力以上のものとし（図-6.1.2(11)参照）、浄化槽で処理した排水は、一部を中水利用として再利用を図り、それ以外を轟川へ排水する。排水量は約110m<sup>3</sup>/日の計画である。

浄化槽からの排水濃度は、「水質汚濁防止法」第3条第3項の規定による上乗せ排水基準の適用区域ではないが、負荷量削減を図るため、沖縄県の上乗せ排水基準のうち最も厳しい値であるBOD及びCOD日間の平均20mg/L以下より低い、BOD 10mg/L以下、COD 15mg/L以下とする。

また、ターミナル施設から発生する汚水処理は、栄養塩類による海域への負荷をさらに低減するため、全窒素、全リンについてより高い処理能力を持つ浄化槽を設置することをも今後検討し、かつ、必要に応じ今後設置が予定されている空港ターミナル会社（仮称）に要請する。

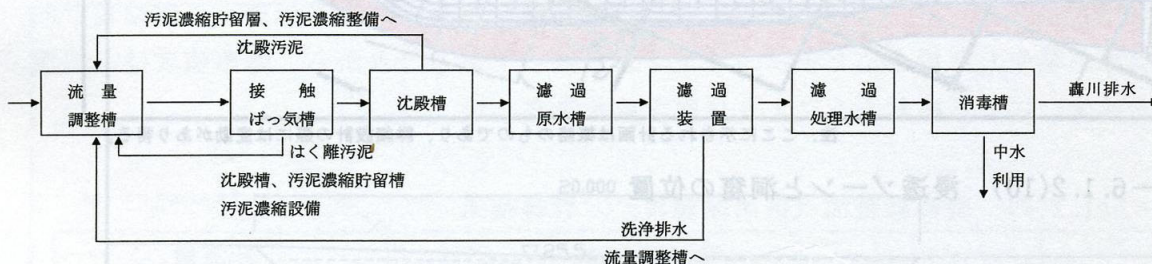


図-6.1.2(11) 浄化槽の処理フロー

表-6.1.2(8) 排水計画

給水対象施設	計画人員	給水原単位	対象処理量	中水量	排水量
ターミナルビル旅客数 従業員等	8,660人 485人	25 L/人日 100 L/人日	216.5 m <sup>3</sup> /日 48.5 m <sup>3</sup> /日	155m <sup>3</sup> /日	110m <sup>3</sup> /日

備考：計画給水量の合計は265 m<sup>3</sup>/日であるが、使用水量は110 m<sup>3</sup>/日である。